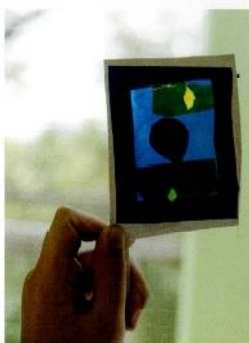
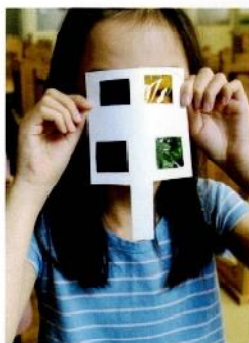


〈おまけ〉

葉をなぞる作業や、色を組み合わせる作業に集中すると、息抜きがなくなってくるものです。集中した作業にくたびると、いつしか子どもたちはカラーセロハンを目にあてて、周りの景色を眺め始めます・・・。

どうせなら作業が一段落したところで、余ったカラーセロハンと厚手の画用紙で、オリジナルの色メガネを作ってみてはどうでしょうか。「周りの景色を見る」というごく日常的な行為を、異なる角度から経験する良い機会になりますよ。



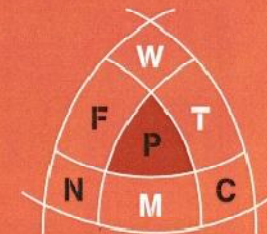
## 葉っぱの線を書こう

# P1

### ■ 統合学習プログラム遊戯 (P)

これは感得 (F)、自然誌 (N)、文化誌 (C) を含む学習教材で、画用紙や絵画用具などを用意する。

■ 片桐杏子 (東京学芸大学連合大学院芸術系教育講座)



### index

1. 対象年齢と必要時間数
2. 事前に準備する材料と道具
3. 実践方法
4. 作品の展示

古来より人間は、植物の形態の中に自然物固有の美しさを認め、様々なかたちで生活の中に取り入れて暮らしてきました。その行為は、器の柄や建築装飾としての文様にはじまり、近代には、壁紙の图案や家具のデザインとして展開されました。また、我が国固有の室内装飾の文化においては、切り花を直接飾るほか、掛軸や屏風絵などの題材として植物が多く扱われています。いいかえれば人は、植物の形態に見出される「美」を生活の中に取り入れることによって、より豊かに生きようと欲する存在であるといえるでしょう。

さてそれでは、児童期の学習において、植物の形態の「美」はどのように体験されるのでしょうか。一般に、図画工作や美術などの教科では、自然物を観察しながら紙の上に再現する「写生」が多く行われます。写生は、観察による発見や情緒的な経験や自分自身の感覚を通して再現できる作業ですが、しかしながらその過程では、ある程度の描写の技術が必要になるため、対象を目測し再現することへのつまづきが生じやすいことも事実です。そしてその困難を抱えた場合、対象を感受することよりも、「正確に描く」「本物に似せる」といった方向へ目的が狭まっていくってしまうものです。

そこでこのモジュールでは、通常の写生とは異なる角度から、植物の葉の形態に着目するための造形プログラムを提案します。「よく観察してから描く」という考え方から発想を転換し、「描きながら、よく観察する」という方法を、子どもたちと一緒に楽しんでみてください。

## 1. 対象年齢と必要時間数

このモジュールが想定する対象年齢は小学校中学年ですが、植物に親しみながら表現するという点では、年齢に関わりなく取り組める内容です。確保する時間は、90分×2〜3回で充分でしょう。ただし、急いで機械的に作業を進めると、各々の経験がふくまれないまま作品のみが出来上がってしまう可能性があります。ぜひ経過の途中でそれぞれの発見や経験を言葉にして語り合える時間を設けて、ゆったりとした雰囲気の中で行うようにしてください。

## 2. 事前に準備する材料と道具

硬質カードケース：無色透明で、A4サイズのもの。

文具店や100円ショップなどで購入できます。

サインペン：黒色。「細い」「太い」両方のペンがある  
と葉の形態に強弱をつけやすくてよいでしょう。

消しゴム：カードケースに描いたサインペンの線の失敗部分を消す際に用います。

トレーシングペーパー：A4サイズのもの。

カラーセロハン：文具店などで販売されているもの  
(通常は4色程度)。

はさみ：日ごろ使い慣れているもの。

カラーセロハンを切ります。

スティックのり：カラーセロハンをトレーシングペーパーに貼り付ける際に使います。

## 3. 実践方法

### ①葉っぱの採集

葉の採集に出かけます。描いてみたいと思う植物の葉を、必要な分だけ採取します。探してみると、日ごろの遊び場に生えている雑草の中にも、様々な形態の葉っぱがあることに改めて気づきます。

### ②葉っぱを描く

葉っぱを集めたら、カードケースと、サインペンを用意します。

採取した葉をカードケースの内側にはさんで固定し、カードケースの表面に、サインペンで葉の輪郭と葉脈をなぞっていきます。このとき、作業上の留意点として「気に入った位置に配置していく」というレイアウトの意識付けのほかに、例えば「同じ葉を繰り返し何枚も描く」「異なる形の葉をコレクションしていく」「大きいものははみ出させて描く」などの構成のアイデアをあらかじめ子どもたちに伝えておくと、作業が各自の判断で展開されやすくなります。

葉の形や葉脈をなぞり始めると、自然と集中の度合いが高まっていきます。

### 〈声かけのヒント〉

- ・あせらず、じっくり葉っぱを観ながら、じわじわとなぞろう。
- ・どんなふうに葉っぱと葉っぱを組み合わせたら面白く見えるだろうか？

途中経過を確認したら、さらに新しい葉の配置を検討しながら、葉っぱをどんどん描き足していきます(失敗した線は消しゴムで消すことができますが、あまりこするとカードケースに白く痕が残るので、修正は必要最低限に留めましょう)。ただし、あまり細かい葉脈にとらわれ過ぎて、作業量の多さにつまづいてしまう場合は、「細かい線を省いて描く」「描く部分と省く部分を混在させる」など自分で判断して良いことを伝えましょう。





### ③色の構成

葉が十分に描かれたら、次に、カラーセロハンとトレーシングペーパーを用意します。

カラーセロハンはあらかじめカードサイズに裁断しておき、作業後は余った端切れを色別に回収しておく、必要な色を必要な分だけ、各自で運びやすくなります。

カラーセロハンは、はさみで切りながら、各々自由にトレーシングペーパーに貼り付けていきます。トレーシングペーパーはカードケースの中にはさみ込むのですが、このとき、カラーセロハンを貼った面が裏になるようにします。

この作業では、葉の線とカラーセロハンの形を必ずしも一致させる必要がないことを伝え、色彩と形の組み合わせを自分なりの発想で考える良い機会になります。

#### 〈声かけのヒント〉

- ・ カラーセロハンを貼り付ける前に、いろいろな組み合わせを試してみよう。
- ・ カラーセロハンに負けて葉っぱの線が目立たなくなってしまうら、もう一度線をなぞってバランスをとろう。



### ④仕上げ

葉の描写と色構成がある程度出来上がったところで、他のものを自由に描き足してみます。さらに、セロハンを細かく切り刻んで散らしたり、重ねて貼り付けるなど、自分なりの面白い効果を工夫しながら、葉を中心とする絵柄の発想を広げていきます。

#### 〈声かけのヒント〉

- ・ 出来上がってきたら、一度窓辺に置いて見てみよう。もっと丁寧に線を描いたり、色をつけられる部分はないだろうか。
- ・ 葉っぱの絵を見て、「描き足したい」と思いついたものを描き足してみよう。



▲表から見た状態(上)と、裏から見た状態(下)の例。表から見たときに、サインペンの線が手前になり、カラーセロハンの色はトレーシングペーパーを通して半透明になります。



▲作業の途中では、時折カードケースを光に透かしてみながら、状態をしっかりと確認しつつ作業を進めます。



[小学3年生による作品例]

(1) 大きな葉を中央に置いて、小さな葉とカラーセロハンを周囲に散らしています。繊細に画面作りを楽しんだ様子が伝わってきます。

(2) 大きなカラーセロハンを貼った後、線を丁寧になぞり直したことで、明快な仕上がりになりました。葉のあいだにのぞく魚や蛇は、作者自身のアイデアです。

(3) 大きな葉を一枚中央に描き、長方形の大きなカラーセロハンを色違いで4枚貼り付けています。大胆ですが、細かい作業との組み合わせでバランスをとっています。

(4) 形の異なる葉を多種類集めて描いてあります。細かな葉脈まで詳細に描き込んでいますが、輪郭と主要な線のみを直して、それぞれの形をくっきりと目立たせています。



(1)



(2)



(3)



(4)

4. 作品の展示

展示できる環境があれば、壁面ではなく、ぜひ窓ガラスに貼りたい作品です。日常生活の場に展示することで、植物の葉と透過性の素材を用いた装飾の効果を体感しながら過ごすことができ、また、「描きながら観察した」という経験を、じっくりと振り返る機会にもなるでしょう。



▲ 明りがないときはサインペンで描いた線しか見えないのですが、裏側から光が射すと、カラーセロハンとトレーシングペーパーが光を透かして、ステンドグラスのように鮮やかな彩りになります。